

令和4年度 発達支援相談事業経過報告 (令和4年12月末時点)

※R3年度実績数はR3年12月末時点

1. 早期発見、早期フォロー体制の継続

◎5つの専門相談

発達相談(心理士による相談)・OT相談(作業療法士による相談)・ことばの相談(言語聴覚士による相談)・発達クリニック及び発達支援クリニック(小児科医による相談)を実施。
 作業療法士2名体制で、昨年度に引き続きケース数は増加(表1)。
 OT相談の延べ人数は1.2倍(55名増)となっている。
 医療につながりほどではないが、個別の関わりで成長を促したいケースの頻回OTの件数が増えている。
 就学後のフォローも、ケース数の割合が20%→24%と増加で、昨年度に続き充実してきている(表2)
 発達相談は、昨年同様に心理士2名体制で実施し、件数も昨年並みとなっている。

◎遊びの教室(小集団親子教室)

つくし園の療育利用者数増加のため受け入れ態勢を補助する目的で、就園児も対象に含めてのプレ療育として事業を運営している。(例年は未就園児のみが対象)
 前期・後期とも全11回の開催予定で、12月末までに後期の6回目まで実施。
 4月は7名でスタートし、現在は登録者12名で運営中。
 12月までに4名、R5.1月に2名が、遊びの教室からつくし園につながっている。

◎のびのび教室(保護者が子どもの行動の見方を学ぶプログラム;ペアレントトレーニング)

発達支援相談利用者や療育利用者に案内し、2クール実施計5名の参加があった。
 受講後のフォロー会は、集団と個別の二つの形で実施し、計5名の参加があった。

◎母子保健事業との連携

乳幼児健診を中心に連携を実施。各相談・遊びの教室・園巡回相談・専門機関への連携等、保健医療課と協力しながら早期発見・早期支援を実施している。

(表1)発達支援相談利用者数

年度	実人数			相談別人数											
	男子	女子	合計	発達相談		OT相談		言語相談		発達クリニック		発達支援クリニック		相談参加	
				実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
R3年度	208	74	282	164	205	180	227	53	80	4	5	3	6	404	523
R4年度	188	89	277	161	198	198	282	47	79	5	8	9	9	420	575

(表2)年齢別相談実人数

	0才児	1才児	2才児	3才児	4才児	5才児	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中1	中2	中3	高1	高2	高3	
R3年度	5	11	37	56	50	66	28	8	7	5	4	2	0	1	2	0	0	0	
(割合)	1.8%	3.9%	13.1%	19.9%	17.7%	23.4%	9.9%	2.8%	2.5%	1.8%	1.4%	0.7%	0.0%	0.4%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
	79.8%						20.2%												
R4年度	5	12	38	49	48	58	30	9	8	5	5	4	3	0	1	2	0	0	
(割合)	1.8%	4.3%	13.7%	17.7%	17.3%	20.9%	10.8%	3.2%	2.9%	1.8%	1.8%	1.4%	1.1%	0.0%	0.4%	0.7%	0.0%	0.0%	
	75.8%						24.2%												

(表3)相談経路別実人数

	経過者	保護者	健診					その他
			健診	保健師	保・幼	学校	保健所	
R3年度	165	13	61	3	29	3	0	8
(割合)	58.5%	4.6%	21.6%	1.1%	10.3%	1.1%	0.0%	2.8%
R4年度	172	20	49	5	20	7	0	4
(割合)	62.1%	7.2%	17.7%	1.8%	7.2%	2.5%	0.0%	1.4%

	健診				
	乳児前期	乳児後期	1.8健診	2.5健診	3.5健診
R3年度	0	2	9	25	25
(割合)	0.0%	3.3%	14.8%	41.0%	41.0%
R4年度	0	4	5	25	15
(割合)	0.0%	8.2%	10.2%	51.0%	30.6%

(表4)発達支援相談の最終フォロー人数

	相談継続	終了	
		医療紹介	終了
R3年度	191	27	64
(割合)	67.7%	9.6%	22.7%
R4年度	183	41	53
(割合)	66.1%	14.8%	19.1%

2. 児童発達支援事業の体制整備

関係機関と連携をとりながら、随時受け入れ体制の調整を行った。

児童発達支援事業とこども発達・療育支援輸送事業についてはつくし園より報告(別紙資料参照)

指導員の育成支援については、つくし園が行うケース検討形式の研修にOTがアドバイザーとして参加、また療育に入り実践的な助言を行う支援を7回行った。

その他、別紙資料参照(つくし園より報告)

花ノ木医療福祉センター委託による南丹市個別療育事業も2名の利用児があった。(表5)

(表5)花ノ木医療福祉センターでの個別児童発達支援事業の利用状況

	実	延	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
R3年度	2	67	0	1	0	1
R4年度	2	56	0	0	2	0

3. 保育所・幼稚園巡回相談事業と学童期への連携の継続

今年度南丹のぞみ園(園部)の支援体制も軌道にのり、園巡回実施回数は前年度同様(表6)。

(表6)園巡回相談数

	園部		八木		日吉		美山		合計		運動プログラム
	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	
R3年度	19	98	4	12	6	26	5	23	34	159	16
R4年度	18	89	5	25	7	24	4	17	34	155	14

(表7)学童期への連携数 (個別相談後の新小学校・中学校入学児童ケース連携・参観:小学校及び放課後児童クラブ)

	合計	
	巡回数(延)	児童数(延)
R3年度	29	156
R4年度	34	203

4. 就学後の支援体制の継続

放課後児童クラブ、学校巡回、検査結果連携を実施。夏休みに小学生の相談が多数あり、夏休みの相談をまとめて学校連携する機会を設けた。個別にケース会議等に参加し情報共有もを行っている。相談支援事業所とも連携し、相談体制を調整している。支援ファイルと移行支援シートを配布。(表9, 10)

(表8) 就学後支援数 (新小学校・中学校入学児童以外)

	合計	
	巡回数(延)	児童数(延)
R3年度	14	34
R4年度	10	26

(表9) 支援ファイル配布数

	中学生	小学生	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	計
R3年配布数	0	0	3	0	0	0	0	3
R4年配布数	0	0	2	0	0	0	0	2
全保有数	7	98	38	9	2	1	0	157

(表10) 移行支援シート活用数

	保育所→小学校	小学校→中学校	中学校→高校
R3年配布数	3	6	0
R4年配布数	4	19	3

* R5.2現在の数値です。

5. 研修の実施(講師関係)

保育所からの依頼で、保護者会での親子運動プログラムの依頼が急増(2→9件)。特に0歳児から発達や子育てに関する話を聞いてもらいたいというニーズが増えている。

5月	26日: のぞみ園職員研修
7月	6日: ファミサボまかせて会員研修 14日: のぞみ園クラス運営研修 21日: のぞみ園職員研修
9月	13日: 八木東1歳児保護者会 30日: ファミサボレベルアップ講座
10月	7日: みやまこども園1歳児保護者会 13日: みやまこども園2歳児保護者会 14日: すこやかセンター0歳児広場 21日: ひよしこども園2歳児保護者会 21日: 八木東0歳児保護者会 28日: 八木東2歳児保護者会
11月	1日: 胡麻保育所スキルアップ講習会 17日: のぞみ園0歳児保護者会 18日: すこやかセンター1歳児広場 18日: 城南保育所0, 1歳児保護者会 22日: やまぼと(美山学童)指導員研修
12月	8日: 八木中央スキルアップ講習会 9日: ひよしこども園1歳児保護者会 26日: ひよしこども園スキルアップ講習会

その他

花ノ木医療福祉センター実務研修に心理士1名が参加。(P5)

R3.6月より幼児健診後フォローで個別相談を紹介する基準を見直し。それに伴い、健診後のフォローで個別相談につながる割合が減少。2健は未通過率が高いため、フォローの数も横ばい。

例年行われている新入児連携(計9件)、参観あ(計13件)に加え、個別相談結果の連携が12件あった。

昨年度は保護者依頼による学校参観が2件
あったため、巡回数、児童数ともに増加してい
たと思われる。
(参考:R2年度実績 巡回数10/児童数19)